

3月は識字率向上月間です
THE WEEKLY REPORT

RI第 2820 地区

水海道ロータリークラブ



2012-2013

Mitsukaido R.C

50th Anniversary

2012-2013 年度 RI会長
田中作次

次回例会予定 3月13日 移動例会 生涯学習センター
3月20日 法定休日

VOL. 50 No.29(通算No. 2350)

2013年3月6日(水)例会プログラム

点 鐘
君が代・ロータリーソング
ビジター紹介
出席報告
SAA報告
諸 報 告
幹事報告
会長挨拶
外部卓話 米山奨学生 全 志英さん



「旧古河庭園」

写真提供:五木田利明会員

2012-2013年度

会長 青木正弘

幹事 石塚克己

創立 1963年9月25日

《例会場・例会日》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 2790
常陽銀行水海道支店内 3F

毎週 水曜日 12:30~13:30 ☎ 0297-22-1251

《事務所》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 3386
釜久ビル 3F

Tel.0297-30-0875 Fax0297-30-0876

E-mail mitsu-rc@lapis.plala.or.jp

URL <http://www.mitukaido-rc.jp/>



3月は識字率向上月間です
THE WEEKLY REPORT

例会報告 Vol.50 No.28 (No.2349) 2月20日(水)晴れ (司会 倉持功典委員長)
本例会での主な事項
☆会長挨拶 ☆外部卓話 稲葉酒造場 稲葉芳貴様

ビジター

稲葉酒造場 稲葉芳貴様

誕生祝



《会員》鈴木勝久会員

委嘱状伝達



北村 仁会員 (諮問委員)

諸報告

親睦活動委員会 五木田益城委員長
観劇会のご案内

3月24日(日) 出発時間:14時 白井石油さん前より
後日FAXを送らせて頂きます。御参加の程宜しくお願い致します。

幹事報告 石塚克己幹事

週報受理クラブ 水戸RC、水戸東RC、水戸西RC、水戸南RC
例会変更通知 なし

会長挨拶 青木正弘会長



ご挨拶申し上げます。寒い日が続きますが各地でちらほらと梅の開花の便りが聞こえる時期となりました。本日は稲葉酒造場 代表 稲葉芳貴様にお越しいただき卓話を頂きます。会員一同ご歓迎申し上げます。また酒好きの私としては試飲が出来ない事が心残りではありますが好きなお酒の話を楽しみにしておりますので宜しくお願いいたします。

今日は、お酒の話ということで寒い時期お酒に合う鍋、しゃも鍋といえば「奥久慈しゃも」の話をさせていただきます。茨城県が畜産の盛んな土地だということは皆さん御承知のことと思いますが、近年は特に広い土地と豊かな自然を活かした地鶏の生産が注目を集めております。「やさとしゃも」や「筑波地鶏」など県内各地で有名ブランド地鶏が育てられていますが、なかでも全国区の人気を得ているのが「奥久慈しゃも」です。「地鶏」と称するためには、日本農林規格に定められた基準を満たしている必要があります。まず、明治時代までに国内に定着していた在来種 38 種の血液率が50%以上であること。生後 28 日以降は1㎡に10羽以内で鶏が床(地面)を自由に動ける状

3月は識字率向上月間です

THE WEEKLY REPORT

態で飼育し、飼育期間が80日以上であること等「奥久慈しゃも」をはじめとする県内の地鶏は、これらの厳しい条件をクリアする為多くの手間と時間をかけて育てられています。

奥久慈しゃもは、昔からいたものではなく茨城県畜産センター養鶏研究室の技術協力によって誕生した鶏で、昭和60年(1985)から奥久慈しゃも生産組合が生産を開始しました。父親には古くから日本で愛されてきたしゃもが選ばれました。しゃもは、江戸時代初期にシヤム(現在のタイ王国)から渡来した闘鶏で、味の良さは折り紙つきで、母親は「名古屋種」と「ロードアイランドレッド種」の交雑種です。「奥久慈しゃも」はこの3種の鶏の長所を併せ持つ、肉質が良く産卵能力の高い品種として誕生しました。産地である大子町には「奥久慈しゃも」を使った名物料理を食べさせる店が沢山ありますが近年東京にも「奥久慈しゃも」を使った鶏料理の名店が沢山あります。この後、稲葉さまよりお酒に合う料理や美味しい飲み方などご教示頂きまして、鶏鍋をつつきながら「男女川」の熱燗であるいは「すてら」の冷をグイッとやるのは如何でしょうか? 皆さん寒いうちに是非ご賞味ください。

外部卓話 「新たな視点での酒造り」 稲葉酒造場 稲葉芳貴様



1. 稲葉酒造場の歴史

私は、1999年より酒造りをし、今年13年目を迎える。酒蔵は1867年創業。私で6代目になる。酒名の男女川は、筑波山の男体と女体山の間を流れる川の名で、「小倉百人一首」の陽成院に詠まれた恋の歌としても知られている歌

2. 酒蔵の継承

稲葉酒造場は、第二次世界大戦後の高度成長期の繁栄の時代以降、酒造業界の変遷の中で、ほとんど江戸時代に創業したままの姿や規模。しかし、地元酒の需要低迷・価格競争による利益率の低下、高齢化による杜氏・蔵人の引退・後継者の不在などの悪条件が重なり五代目蔵元の父で酒蔵を閉じるしかないと考えていた。そんな中、14年間勤めた会社を退職し、2002年の年明けに600リットル規模の酒母タンクにわずかな量の自醸酒を仕込むことに成功。

3. 新たな酒蔵の方向性の確立

活用資産の確認……蔵の特徴や強みをプラス思考で考えた。

方針……蔵の個性を明快に描き出せたことから、蔵再生のイメージや考え方を自然なかたちでできた。

「新たな産業構造を想定した蔵再生」:蔵を廃業に追い込んだ元凶である現代の酒の流通システムに対し、それ以前に普遍的であった古い産業のかたちを現代に適合するかたちに読み替え、意識的に取り込みながら蔵の強みとして活かしていく。

「コントラスト発想の導入」:蔵の存続・発展に対し阻害要因と考えられてきたものを、全て蔵の個性や強みととらえ直し戦略化する。

4. 酒蔵ミュージアムとしての整備

蔵の整備:日本酒の醸造場を、酒を製造する工場ととらえるのではなく、多くのお客様と「酒造り」という日本古来の豊かな文化性に満ちた「コトづくりを楽しみあう場」として設け直していくとともに、蔵を包む自然環境や歴史的背景にも配慮した調和性のある蔵づくりを志向した。

5. 純手作りの酒造り

職人を一切使わない酒造りを前提に、作業の負担が比較的軽い小型タンク6基を設置し、少人数でも安全かつ負担感なく仕込めるようにレイアウトの工夫をおこなった。

3月は識字率向上月間です THE WEEKLY REPORT

6.「身土不二」の考えに立った酒と食の提供について

2009年からは、酒蔵の一部を改修し食の提供できる場を設けた。「地元の旬の食品や伝統食が身体に良い」の考えに立ち、つくばの旬の採れたて野菜を使用。調味料も醤油・味噌ともに天然醸造のものをこだわり使用。

7.里山環境と地場の生業を守る環境拠点としての地域貢献

蔵は単なる製造工場ではなく、グリーンツーリズムの可能性を秘めた観光拠点としても生かせることが実感できた。蔵の存続は、周辺の歴史・文化的風景の保全にも貢献しており、つくば市、茨城県の貴重な地域遺産となることが期待していききたいと思う。

8.今後の稲葉酒造場について

星ふる里蔵はメディアにしばしば取り上げられ、少しなりとも知名度が上がってきている。自醸酒の醸造を再開してから12年目の現在、生業の拠点である蔵を維持・整備しながら、一家の生計が立てられる程度の利益が得られるようになってきている。しかし全て手作りのため、生産量は限られており、現状のままでは、画期的な発展は望めない。通年で仕込みが出来るようにするか、一仕込の量を増やす等の生産体制の整備が求められるが、蔵の基本コンセプトとの不一致や初期投資の負担リスクなどから、慎重な検討が必要である。また、蔵の存亡は、蔵元一人の働きにかかっており、不安定である。有能な常勤の仕込み職人や販売スタッフ、後継者をじっくりと育てていく必要がある。

第2の成果は、大手流通システムや酒販店を通さなくても、蔵の直売により、酒造業の経営が可能であることが確かめられたことである。人はかならずしも「酒」という物質的なモノだけを求めているわけではなく、蔵を訪ね蔵元と交流するという物語的な価値を求めている側面もあると思われる。丁寧に手入れがなされた酒蔵を訪ねる人が増え、またその人たちが高価な手作りの酒を好んで買って来て、リピーターになり、またくちコミでファンが広がっていくという好ましい循環が形成されつつある。

今後もこのような視点で代々続く酒蔵を維持し発展させていきたい。

出席報告 (北村陽太郎委員長)

会員総数	出席者数	欠席者数	賜暇	メーク	出席率
55名	37名	18名	0名	18名	100.00%

ニコニコボックス (大串 卓委員)

入金計 ¥21,000 累計¥1,414,000

誕生祝御礼《会員》鈴木(勝)会員

稲葉様、卓話宜しくお願ひします。 青木(正)会員

寒さもあと一週間のようです。気合いで乗り越えます。 石塚(克)会員

3月13日移動例会、出席宜しくお願ひします。 石井会員

早退します。 五木田(利)・雨谷 各会員

前回欠席しました。 小島会員

欠席しました。 草間会員

欠席が続きました。 山野井会員

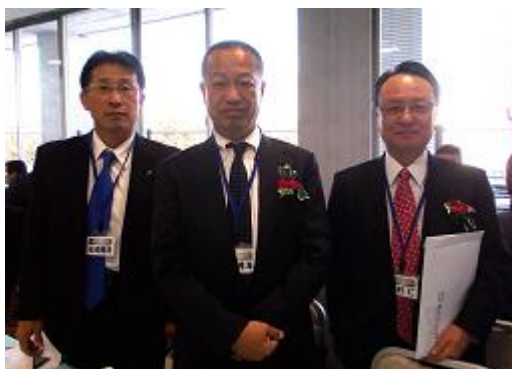
例会欠席しました。 横山会員

会報委員会 松崎隆詞委員長 五木田利明副委員長 高須 薫委員

3月は識字率向上月間です
THE WEEKLY REPORT

IM写真集

平成25年2月23日(土)



3月は識字率向上月間です THE WEEKLY REPORT

青少年交換が平和を築く



朋友ロータリアンの皆さん、私は若いころ、世界中を旅したいと思っていました。しかし当時は、旅を夢見ることしかできず、海外をはるか遠くの世界のように感じていました。とはいえ、日本では誰もがそうするように、私も学校で英語を勉強しました。最初の教科書の1ページ目に「This is a pen」と書かれていたことを今でも覚えています。もう50年も前のことです。それから、世界は大きく変わり、私はロータリーの会長として、かつて夢見た以上に世界中を旅しています。

世界中の人と交流する喜びを感じる

初めての場所を訪れると、初めての言葉、人々、慣習に出会います。私は、行った先々でお目にかかる方々から学ぼうと全力で努めています。お目にかかる人から学べるはずだと信じているからです。このように考えると、ロータリーの青少年交換プログラムの意味がより深く理解できると感じます。そして、青少年交換を通して、ロータリーがいかに素晴らしい贈り物をしているかがわかります。青少年交換は、数々の心を開かせ、信頼や心の交流を築きます。また、国や背景が異なる人々を一つにすることができます。

青少年交換に参加した若い人たちは皆、多くのことを学びます。自分とは全く違うと思っていた人たちが、実は全く同じであることを学び、世界中の人々と交流する喜びを感じるようになるでしょう。彼らは世界についての理解をより深め、別人のようになって帰国します。

彼らは、もはや一つの言語、一つの文化を知っているだけではありません。彼らには、訪れた国やそこで出会った他の国からの参加者とのつながりを持っているのです。期間が終わるころには、ホストファミリーの一員となっていることでしょう。こうして青少年交換学生たちは、世界で最も大きくて国際的な家族である、ロータリー家族の一員となります。

青少年交換はロータリーの使命を担う

ロータリーの青少年交換プログラムは、40年以上にわたって充実した活動を継続し、今日、第五奉仕部門である「新世代奉仕」の一部となっています。この奉仕部門には、インターアクト、ローターアクト、ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)などのプログラムのほか、30歳までの若者を対象としたクラブや地区の活動が含まれます。

若者に力を注ぐことで、ロータリーの未来と、より平和な世界を築くことができます。青少年を支援することで、新たな世代にロータリーを引き継ぐことができます。また、国境や文化の壁を超えた理解の輪が広がります。私たちは支援の手を差し伸べることの大切さを教え、ロータリーの中核となる価値観を伝承することができます。このようにして、私たちは平和の構築を支援しています。

青少年交換は、一つひとつの交換を通して国と国との間の関係を育み、平和な世界を築くというロータリーの世界的使命の本質的な要素を担っています。

SAKUJI TANAKA PRESIDENT, ROTARY INTERNATIONAL

Copyright 2003-2011 THE ROTARY-NO-TOMO

Rotary World Magazine Press **ロータリーの友**

ロータリーの友事務所 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル4階 Tel. 03-3436-6651 Fax. 03-3436-5956
email hensyu@rotary-no-tomo.jp